

アイサンテクノロジー株式会社

名証 IR セミナーin 東京、名古屋 質疑録

【日時】 東京会場 2025 年 5 月 22 日 (木)

名古屋会場 2025 年 6 月 4 日 (水)

【対応者】 代表取締役社長 加藤 淳

■名証 IR セミナーin 東京

【質問 1】 ダイナミックマッププラットフォーム株式会社(DMP)とは競合になりますか？

【回答】 DMP は私どもも出資させていただいております。自動運転を実現していく地図データをオールジャパンで進めていこうということでスタートした会社という認識でおります。彼らの作ったデータを私どもも利用することができますし、また、私どもの作ったデータを彼らのデータと融合しながら利用していくこともできるため、どちらかというコンペティターというより、一緒にやっていきましょうという仲間というところで見えていただければ現時点では良いのではと思います。

【質問 2】 3 次元地図がよく分かりません。

【回答】 みなさまが普段ご覧になられている地図は 2 次元で高さのデータがありません。そこに高さのデータを足して立体的に表現して確認できるデータが 3 次元地図データと呼ばれます。精度が高いもの低いものといろいろあるのですが、少なくとも自動運転で使う 3 次元地図データは極めて高い精度を持った、相対制度で±25 センチという精度が保持されているデータになっております。

【質問 3】 自動運転で事故が起きたときはどうするのですか？保険会社側で自動運転の車を引き受ける会社があるのでしょうか。どういうふうに考えていますか。

【回答】 5 年ほど前からレベル 4 ディスカバリーというグループを形成していきまして、損保ジャパンさんにもお入りいただき、自動運転の保険関係をどう見ていくか模索をさせていただいております。この辺りのところは専門の保険会社さんの知見、見解がすべてになってくるため、私どもが言及する立場にないため、これ以上は回答を控えさせていただきます。ただ、自動運転の実証実験を行うときにリスクアセスメントとして、車を走らせるにあたり、その場所にどういったリスクが顕在しているかを想定する際に損保ジャパンさんの知見を非常に活用させていただいています。彼らのリスクアセスメントを踏まえて、いける/いけない、大丈夫/大丈夫じゃない、というところを判定して実証実験を進めさせていただいております。

【質問 4】 ソフトウェアの売り方はサブスクか買い切りか、どちらでしょうか？

【回答】 計測機器は、機器を仕入れ、私どものソフトウェアを加えて付加価値をつけてお客様のところにお届けする売り切りになっております。ソフトウェアは現時点では売り切り販売が多いですが、一部サブスクリプションの商品を持っております。お客様には販売して、その後に次年度以降、サポートサービスの保守契約というのにご加入をいただいております。ご加入を賜りますと、お客様は常に最新のシステムをお使いいただく環境を、お手元にご用意いただけるという形にしております。そういう意味では表現が適切じゃないかもしれませんが、疑似的なサブスクリプションでご提案をさせていただいております。ただ時間の流れとともに、Cloud 上にアプリケーションをセットして、そういう環境でお客様にお届けしていく状況にもなっていくだろうな、というふうに近未来的には見えている世界になっております。

【質問 5】 A-Drive、三菱商事との提携について詳しく教えてください。

【回答】 A-Drive は三菱商事さんと共に作らせていただいた会社です。おとし 2 月に作りましたが、その前から三菱商事さんとは自動運転の実証実験で社会実装に向けて、波長がぴったり合ったということで、A-Drive という会社を作らせていただきました。皆さんご承知の通り、アイサンテクノロジーと三菱商事はマンモスとアリくらいの違いがありますので、とんでもなく大きな会社様ではあるんですけども、彼らの持つ自治体様に向けた営業力というところは、私どもにはなかなかないところですので、大いに活用させていただいて、ご協力いただいて、大変助かっております。これからもこのところは大きく伸長できるのではないかというふうに期待しております。

【質問 6】 埼玉を始め全国各地で道路陥没が増えています。自動運転では、道路の状況等を踏まえて走行させていると思いますが、道路状況を 3 次元で中まで通して確認するようなことは行っていますか？

【回答】 まさに今、非常に大きなトピックになっているところだと思いますが、現時点では、地下埋設の状況を踏まえながら実証実験等を行うというところまでに至っております。ああいった事故がこれから出てくるということを想定しますと、当然自治体等はそのようなデータをお持ちになられていますので、そういったデータを踏まえながら検討して、リスクアセスメントしていくことは必要と判断しています。そして私たちが第三の事業として、ぜひ頑張っていきたいなというところの都市空間 DX というのが、まさにそのところになっております。様々なデータを自治体の皆さま方がお持ちになっていますが、縦に割られていてなかなか横にうまくつながっていません。ガス管もあれば、水道管もあれば、こういったものがどの深さで、というところが掘ってみないと分からないというところを、いかに 3

次元位置データを使いながら、その空間を認識していくか、ということは都市空間 DX の大きなところではないかと判断しております。課題は多いのですが 1 つ 1 つ解決しながら安心安全な都市計画を作っていくには、高精度な地図データが大切なんだということを訴えていきたいと思っております。

■名証 IR セミナーin 名古屋

【質問 1】 今後、企業の認知を深めるために IR 活動等をどのように進めていくのでしょうか？

【回答】 アイサンテクノロジーの知名度を高めるためにどのように広報・IR を進めていくかは、中期経営計画のテーマとして大きく掲げております。200 名少々の会社のためそれほど多くのリソースは割けないながらも、専門部署を昨年 4 月に立ち上げ、極めて優秀なブレーン・スタッフを配置して、X(旧 Twitter)や Instagram など SNS をフル活用し、自動運転のみならず会社の取り組み、業務内容の発信を日々行っております。また、昨年、名古屋証券取引所に重複上場したのは、個人の株主の皆様方の認知を今以上に増やしたいという狙いがありまして、そういった意味では積極的にこのような場に出て認知を広げるための努力を続けてまいりますので、応援のほどよろしくお願いいたします。